



ローヤルゼリーの採乳作業に必要な道具一式。それぞれ卵、幼虫、ローヤルゼリーをすくうための各種王乳へら。

- 1... 古くなった巣箱から新しく交換する。
- 2... 養蜂の器具の販売店。
- 3... ハチミツに欠かせない遠心分離機。巣を壊すことなくハチミツが取れ、蜜ロウが混入する割合が減るようになった。また巣枠に巣が残るので、そのまま巣箱に戻すことで再利用が可能になった。
- 4... 巣箱



文・写真
ゆうあいグループ
タイチェンマイ駐在員
川口泰広



Tool of Bees keeping

養蜂の道具

養蜂の道具

養蜂を支える道具たち

養蜂を始めるのに、ミツバチの群は欠かすことができませんが、蜜源に近い適した場所の他にも、いろいろな器具が必要になってきます。

まず、何はともあれ「巣箱」がないと始まりません。巣箱は世界的に標準となる大きさが決まっており、ほとんどの構造はどれも同じです。友愛では、独自に巣箱を補強し、自社でペンキを塗りロゴを入れて、古くなったものから順次交換しています。



4

巣箱の前面にあるミツバチの入り口は、前面の上半分がフタになっており、下におろすと閉めることができる。巣箱にミツバチが入った状態で長距離を移動する場合、ミツバチが逃げないようにこのフタを閉じる。上半分が網窓なので通気性が保て、ミツバチの蒸殺防止になる。箱の角は、金網で補強されている。



2

チェンマイ市内の養蜂器具販売店。巣箱、燻煙器や巣枠なども購入できる。手前に見えるのは、採蜜に使う遠心分離器。



3



6

箱と巣枠

巣箱の中には「蜜ロウ」の記事でも紹介した「巣枠」と呼ばれる板状の枠を入れます。ミツバチがここに六角形の部屋を作り、ハチミツや花粉を貯めます。一つの巣箱には巣枠を8枚入れ、ローヤルゼリーを採乳するためには、さらに人工の王台板を1枚増やします。

巣箱の中に巣枠と人工王台を入れる。現在の巣箱が普及してからは、巣を壊したりミツバチを殺さずに、内検や採蜜が簡単にできるようになった。

燻煙器 (くんえんき)

養蜂では「内検」と呼ばれる巣箱内部の点検が欠かせません。巣箱を開けて、女王バチの状態、ハチミツや花粉の量などを確認しますが、この時に「燻煙器 (くんえんき)」という器具で煙を吹きかけ、ハチをおとなしくさせます。煙にひるんでハチの勢いが静まったところで、巣箱内から巣枠を取り出します。

上部の蓋をあけて、枯れ草、落ち葉、おがくず、ワラなどを入れて火をつける。日本では麻袋を、タイでは乾燥したトウモロコシの穂軸を使うことが多い。ふいごで空気が送り込まれ、先端から煙が出る。



7

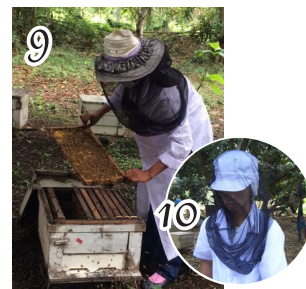


8

蜂除けの面布 (めんぷ)

ローヤルゼリーの採乳では、ミツバチに刺されることも少ないのですが、特に食料であるハチミツを採蜜する場合は、ミツバチも攻撃的になります。採蜜の際は、用心のために頭から面布(網)を被り、燻煙器を大いに活用します。

ハチにさされないように頭からすっぽり被り、腕にゴムを通してわきの下で止める。かなり、暑い。



9



10

巣箱を運ぶための金具

ミツバチごと巣箱を運ぶ際は、専用の金具を使います。巣箱を両側から挟むように引っ掛け、天秤棒にぶら下げます。取り外しが容易で、しっかり巣箱を掴む仕組みになっていますが、巣箱1箱は20kg近くになり、上手くバランスを取りながら運ぶのは難しい作業です。

巣箱を運ぶための金具。中心部分にスプリングが入っていて、しっかりと固定できる。



11

12



11

12

- 5... 巣箱と巣枠
- 6... 巣枠
- 7... 燻煙器
- 8... 燻煙するためのトウモロコシ
- 9... 面布を被った作業風景
- 10... 面布
- 11... 巣箱を運んでいる風景 (金具は12のものとは別の種類です。)
- 12... 巣箱運びの金具